

インターバンクの声（2014年10月24日）

ロンドン市場の朝方に発表されたユーロ圏購買担当者景気指数（PMI）が堅調な内容を示したことから、火曜日以降ずっと下落が続いていたユーロが徐々に持ち直す動きが見られた。このためユーロ圏経済が景気後退期に入っているとの懸念が薄れ、安全資産という理由で買われていた円にも影響、重くなりつつあった107円半ばレベルのドル売りの厚みを試しに行くきっかけにもなった。さらに昨晩はニューヨーク市場に入ってもドル買いの背中を押す材料が並び、ドル円相場も予想外にあっさり108円台に乗せてきた。米企業ゼネラル・モーターズやキャタピラーの強い四半期決算に始まり、雇用関連、住宅関連と続き、景気先行指数の予想を超える伸びが駄目を押す格好となった。108円30銭台まで上昇後、ニューヨーク市場終盤に調整のドル売りがあったが、むしろ108円がサポートになりつつある状態を確認するようにもなっているが、アジア勢にとってはドルを買い上げにくいレベルまで戻ってしまったような気がする。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。